



“ピースマッチ” (サッカーを通じた平和発信)

被爆地で活動するクラブとして、サッカーを通じて、全世界へ平和の発信をするため、原爆投下の8月6日の直近のホームゲームを「ピースマッチ」として位置付け、8月3日のコンサドーレ札幌戦において実施した。前年のV.ファーレン長崎戦に引き続き実施したもので、“One Ball. One World. スポーツができる平和に感謝”をスローガンに、選手・観客が一体となって、平和の発信を行った。

取組内容：折鶴持参の小中高生招待、両チーム選手等のリレーメッセージ・平和の宣誓、高校生の平和宣言、平和の鐘による黙とう、行政、高校・大学による平和ブース、ピースメッセージボード、スタジアムでの平和学習、平和のバスツアー等

活動場所 : エディオンスタジアム(8月3日)

取組テーマ : 平和活動

協働者 : 行政／平和首長会議／対戦相手

協働者名 : 広島市役所、平和首長会議、北海道コンサドーレ札幌

活動で工夫した点

相手チームのコンサドーレ札幌の協力を得て、前日の慰霊碑参拝に加え、選手全員がピースマッチの統一Tシャツ（サンフレは86番のユニフォーム）を着て入場したほか、大型映像のリレーメッセージ、チームキャプテンによる平和の宣誓などを実施した。また、平和（復興）を象徴する緑のジェット風船をビジターの皆さんも含め、平和の思いを込めて飛ばすなど、スタジアム一体となって平和の大切さを発信でした。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

2018シーズンの広島・長崎に比べた発信力の低下を防ぐための工夫が課題であった。その結果、前述のジェット風船等に加え、原爆資料館の見学とサッカー観戦をセットにしたバスツアー、日・英語による高校生の平和の誓い、広島県の復興展示や広島市のピースロゴ入り缶バッチの提供など関係者の努力により、昨年よりも多くの施策が実施できた。

クラブや地域の活動後の変化

マスコミや行政のツールを通じて、広く平和を発信できたと考えている。2年目となる「ピースマッチ」であるが、次世代に語り継いでいくべき若い世代の参加が増えるなど浸透してきていると実感している。



協働者の声

広島市長からも、スポーツを通じて平和の発信をするという取組に対し、高い評価をいただいている。出展、出演をしてくださった各学校からも、平素から取り組んでいる平和学習のよい発表の機会となった等前向きな感想が寄せられている。

参加者の声

近年、被爆体験の風化が叫ばれる中、アンケート調査などからも平和を考える1日になったとの声が寄せられるなど、一定の成果があったと考えている。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

1クラブだけの力では何もできないが広島県、広島市、平和首長会議等行政との連携や被爆者団体をはじめ平和活動を行っているNPO等の協力を得ることで多くの方に平和に対する広島の思いが発信できたと考えている。

補足

今後も、相手チームや関係者の協力を得て、8月6日の直近のホームゲームで平和の発信を続けてまいりたい。